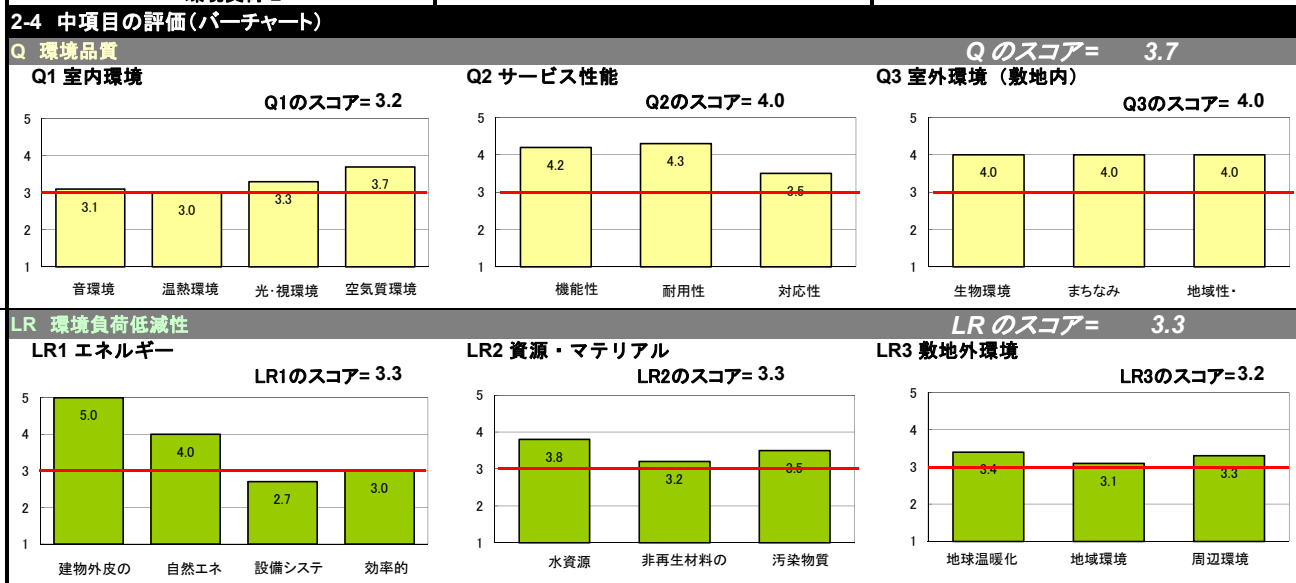
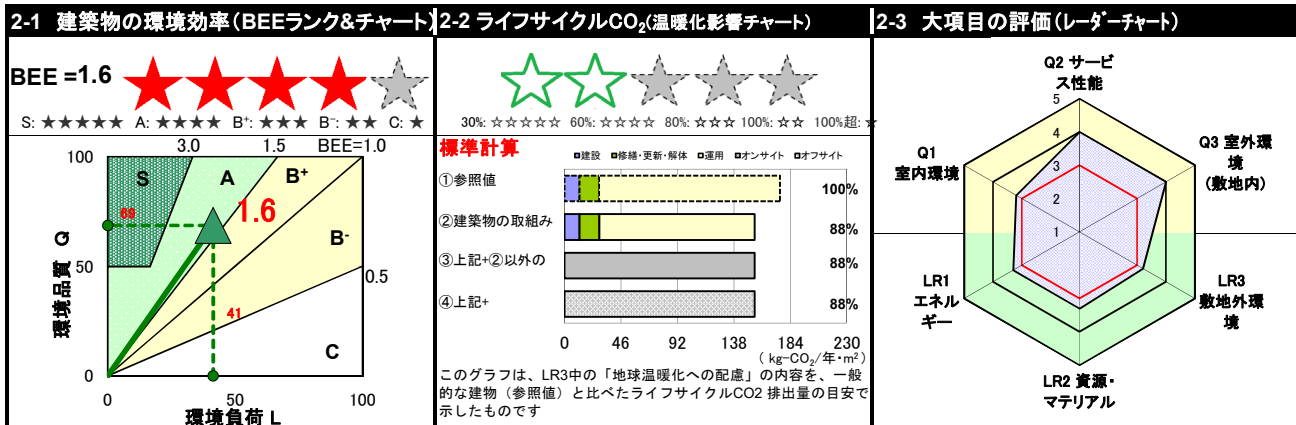


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	兵庫県立がんセンター	階数	地上7F
建設地	兵庫県明石市北王子町13番70号	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	1,183人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 竣工	評価の実施日	2023年2月10日
敷地面積	40,187㎡	作成者	山下設計 田村翔
建築面積	8,855㎡	確認日	2023年2月20日
延床面積	41,297㎡	確認者	山下設計 三浦 敬明



3 設計上の配慮事項		
総合 計画敷地の豊かな自然を活用しながら患者一人ひとりに寄り添い、個々のニーズに合った医療提供の場を創ることを目的とし、患者や家族を心身ともに治し、支える全人的医療と医療と研究が緊密に協働する集学的治療を将来にわたって提供し続ける環境づくりを目指す		その他 既存公園の地盤レベルからの造成により、建物設置レベルを高めることで埋蔵文化財の遺構に損傷を与えない断面計画
Q1 室内環境 重症化する入院患者の集中的ケア、社会復帰に向けたQOLの向上を重視。スタッフステーションに病室を配置して視認性を高め、病室は凹凸のない長方形の平面とし、患者の状態に応じた環境づくりを行う	Q2 サービス性能 建物のコンパクト化による動線短縮に加え、関連部門を同一フロア配置により医療動線を効率化する。研究部門は検査エリアと一体的に配置することで診療と研究の連携を最大限に高める	Q3 室外環境(敷地内) 旧明石西公園の豊かな緑を活かし、敷地全体を医療環境と捉えた整備を行う。公園の緑道の利用や公園と連続した患者サポートセンター・エントランスを設け、患者のADLを高める
LR1 エネルギー 高断熱化、単一窓を中心とした開口部抑制による室内環境の維持。排煙兼用トップライトなどを設けることで、自然光利用も促進	LR2 資源・マテリアル 既存公園の樹木をアートなどに再利用し、利用者に親しみを与える再資源化を図ると共に、施設全体への親しみを向上させる工夫を行う。部分的にエコマテリアルの採用も実施	LR3 敷地外環境 敷地内に路線バスの引き込みを予定しており、敷地南・東側からのアプローチを想定した外構計画とする。敷地西側に兵庫県立大学明石看護キャンパスがあることから、敷地内のバス停から大学へのアクセスを妨げないような配置や、外構計画を行う

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される